



どうやってごみを減らそう？

1 生ごみをなくす！

生ごみ処理機器を使って、燃やすごみから生ごみをなくしましょう。

コンポストタイプ、バクテリア分解型、電気乾燥方式、と皆さんのライフスタイルに沿った方法を選んで、実行しましょう！燃やすごみから生ごみをなくすと、燃やすごみの保管のしかたが変わり、出す回数がグッと減って、生活そのものが大きく変わります。



コンポスト
(堆肥としてリサイクル)



生ごみ処理機
(乾燥させるなどして生ごみを生ごみでなくします。)

飯田市では、生ごみ処理機器の購入を補助しています

購入金額の2分の1(上限30,000円)を補助します。前回の補助を受けてから7年経っていれば、再び補助を受けることもできます。

6年度から新たにリース費用も補助の対象に！

令和6年度から、リースによる生ごみ処理機器の使用も新たに補助の対象とします。**リース費用の2分の1(上限30,000円)を補助**します。

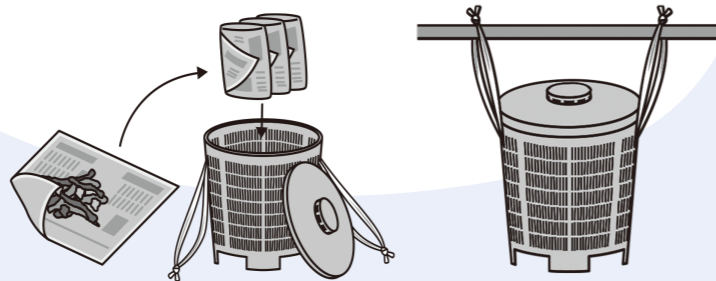
生ごみ処理機を試してみたい、という方には、無料のお試しレンタルも行っていますのでお問合せください。

2 生ごみを乾かす！

生ごみを堆肥にしたり、土に還元したりするばかりでなく、りんごの皮や、茶葉の出し殻、コーヒーの粉など、植物性の生ごみなら、単に乾燥させて水分を減らすだけで、ごみ減量効果は絶大です。絞るだけでも効果的！生ごみに占める水分の割合はなんと80パーセント！ごみを出す前の一工夫です。



環境上級者向けには、自然の風で乾燥させるこんな器具も。



生ごみを新聞紙に包んで入れる

物干し竿などに吊す

写真・イラスト提供：NPO法人 生ごみリサイクル全国ネットワーク



3 紙類のこまめな分別！



台所での紙容器。

レトルトのパッケージや、お弁当の外箱、缶ビールの6本パックのケースなど、つつい燃やすごみに入れがちです。ぜひ、台所に紙専用のリサイクルボックスを置いて、こまめなリサイクルを！

なお、市の分別では、「その他の紙」となります。



4 プラスチックを分ける！



令和5年4月から、「プラスチック製品」も「プラ資源」として回収しています。歯ブラシや筆記具など、これまで燃やすごみとしてきたプラスチックも、リサイクルの対象です。こまめな分別で、燃やすごみを減らしましょう！

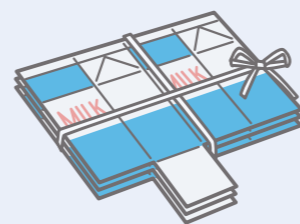
ちなみに、**ごみを燃やすにはプラスチックが入っていた方がよく燃えるのでよい、という話を耳にするかもしれませんが違います。**稲葉クリーンセンターには、資源となるプラスチックを燃料代わりにあてて入れる必要はありません。

水分とごみそのものを減らし、プラスチックはリサイクルを心がけましょう。※プラスチック製でも、家電製品の部品は「プラ資源」ではなく、「燃やすごみ」となります。

※長さが50センチメートルを超えるものも、燃やすごみです。



5 店頭回収を利用する！



ダンボール、缶、ペットボトル、牛乳パックなどの資源物は販売店でも回収しています。

国連が示したSDG's (持続可能な開発目標)の、「12」は、「つくる責任 つかう責任」としてあります。飯田市内でも、店頭においてリサイクル対象品を回収する動きが広まっており、販売する事業者が自ら回収を行う取組みを、飯田市は推奨します。

